

bethel hospice letter spring

ホスピスだより

tender loving care vol.21



松山ベテル病院 緩和ケア病棟

〒790-0833

松山市祝谷6丁目1229番地

TEL 089(925)5000

FAX 089(925)5599



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院

<https://www.bethel.or.jp>





はじめに

暖かな春の陽気とともに今年も満開の桜が咲き、患者さまと写真撮影会が開催されました。そこに写る生き生きとした表情はいつまでも色あせることなく、ご家族や私たちの心の中に残っています。

昨年から全国的に新型コロナウイルス感染症が蔓延したことにより、院内でも地域の状況を踏まえて面会に制限を設けるという措置をとることになりました。大切な人たちと会えなくなることが、患者さまご家族にとっても私達スタッフにとっても、とても辛いことになりました。そんな中でも感染予防策をとったうえで、少しでも心が温まる思い出ができるよう患者さまご家族と向き合っています。今回は「桜の思い出話」を1つ紹介させていただきます。



～最高の結婚式～



白石満美さんは天真爛漫で笑顔の素敵な女性です。

明るく人懐こい性格で、職場の同僚・友人に愛されており、満美さんはいつもたくさんの方に囲まれています。私達スタッフともすぐに打ち解けました。私達にとって母親的存在でもあったので、ときには自分達の悩みを相談し、アドバイスをもらい…幾度となく励されました。

お部屋の中ではいつも笑い声が絶えません。



私達と出会った時から息子さんの結婚式に参加することを目標としていました。

“どんな結婚式になるんかなー♪楽しみ(^)/”といつも笑顔で話されていました。立派に成長した息子さんを見守る満美さんの表情には優しさがあふれていきました。



息子さん夫婦も満美さんのこと大切に思っていました。

コロナ禍であり面会制限・面会禁止となり、満美さんは大好きな人たちに会えず落ち込みを隠せずにいました。私たちスタッフも医療者として感染対策が必要だと思いながらも浮かない表情の満美さんの姿に葛藤がありました。そんな満美さんに息子さん夫婦より“母にウエディングドレス姿を見せたい”と希望があり、サプライズを実施する計画を立てました。

桜が満開に咲き誇る吉日、“最高の結婚式”を開催することができました。

サプライズを提案してくださった息子さん夫婦とサプライズに協力・参加してくださった満美さんの職場の方たち本当にありがとうございました。

その日、スタッフは「桜の下で私たちと一緒に記念写真を撮ろう。写真撮るからオシャレして行こう！」と満美さんを連れ出すことに成功☆





そして息子さんと2人で…



「これから一家の大黒柱として頑張れ！」と母親の表情の満美さん

協力してくださった職場の方々
も一緒にみんなで記念撮影☆



そして、もう一つサプライズが！
職場の皆さまから感謝状贈呈☆
お勤めご苦労様でした！



“みんなありがとう！
また会おうね☆”



皆さん本当にありがとうございました！

新型コロナウイルス感染症対策で面会制限が続き、私たちスタッフも患者さまが大切な人と一緒に過ごす時間を今までのようにもてないことにジレンマを感じていました。今回の結婚式は、当初の予定では病院内チャペルでのサプライズ結婚式を考えていましたが、新型コロナウイルス感染症対策上難しくなりました。しかし中止という形ではなく制限の中でも、満美さんや皆さまの笑顔をみたいという思いで今の状況でできることを考えました。その結果、満開の桜の下で皆さんと幸せな時間を共に共有できましたこと、スタッフ一同より嬉しく思い世の中の情勢が変わっていく中でも私たちにできることはまだまだあると学び、今後の糧になりました。

マスクは必要に応じて病棟で励行しています。



対談 企画

患者さまもスタッフ も一つのチームに

先日、ホスピスに関わっているスタッフによる対談をしました。対談のテーマは、『患者さまもスタッフも一つのチームに』です。今号から数回に渡って、対談の内容を掲載していきます。

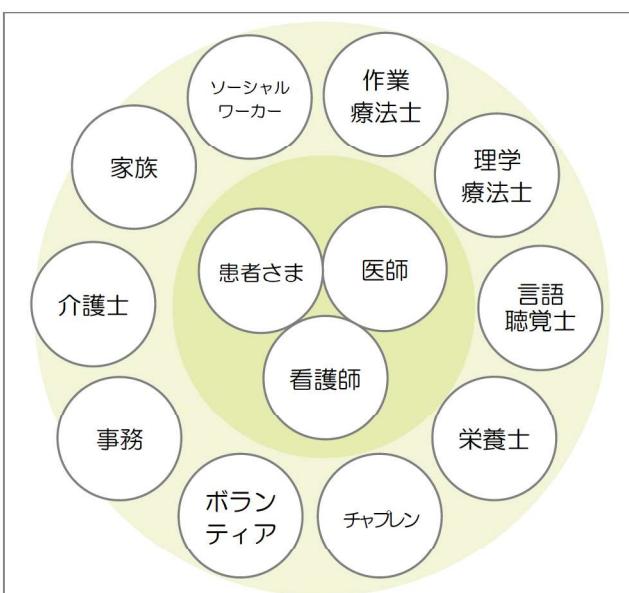
素晴らしいスタッフがたくさんいるのに、バラバラでもったいないと言われて。

佐々木 この対談をするきっかけとなったのは、ある患者さまからのお願いでした。在宅医療を利用しておられたその患者さまのお宅に、私と稻田さんが訪問したときに、このようなことを言われました。「患者が治療のことなんかを決定するときに、お医者さんとか看護師さんだけじゃなくてチャップレンとか他の視点を持った人がいたらしいと思うけど、どう?」「ぜひ検討してほしい。せっかく素晴らしいスタッフがたくさんいるのに、今はまだバラバラで、もったいない。」

確かに、松山ベテル病院には医師や看護師の他にもいろいろなスタッフがいます。今でも、チームとして動けるように努力をしていますが、この患者さまが言われるように、まだまだ不十分なのかもしれません。まず、現状の松山ベテル病院では、患者さまとスタッフがどのような関係になっているのか、確認したいと思います。

患者さま、医師、看護師が核となります。その核を他のスタッフがサポートしています。

図1 患者さまとスタッフの関係（現状）



坪田 医師、看護師がスタッフ側の核

となっています。入院すると、まずは担当の看護師が中心となって患者さまの入院生活をサポートします。それから、必要に応じてリハビリや、栄養士などが関わります。ホスピスの場合、患者さまがここで生活をする、という考え方をしていますから、お風呂に入る、食事をするなど、生活のサポートをするために介護士も関わります。それぞれ、自分の専門的な分野で、患者さまのサポートにあたっています。また、ボランティアの方々がいて、院内でお茶会を開いたり、音楽を演奏したり、様々な形で患者さまの生活を豊かにしています。非常にたくさんの人人が一人の患者さまに対して関わっています。



坪田信三 医師
佐々木真理 チャップレン
稻田光男 看護師
篠崎玲奈 看護師
吉井也実 看護師

佐々木 入院時は担当の看護師や、医師、患者さまが中心になって生活がスタートする。更にその周りにいろいろな専門スタッフがいて、患者さまの生活を支えるのですね。分かりました。では、例えば、患者さまが退院して在宅医療に切り替えようかなと思ったときなど、方針を変更するときなどは患者さまとスタッフはどのように関わるでしょうか。

坪田 スタッフ側は医師と看護師が中心になります。特に、担当の看護師が中心です。患者さま本人が、自宅でどのような生活を送りたいかということを土台にして、看護師、医師、患者さま、ご家族、ソーシャルワーカーなどで話し合って決めます。

佐々木 なるほど、入院後も、主に患者さま、医師、看護師で方針決定を行う。必要に応じて、ご家族や専門のスタッフがサポートするのですね。

篠崎 現状でもチームとして機能しているように見えるのですが、その患者さまは、どうしてチームが一つになっていないと思われたのでしょうか。何か困ったことがあったのでしょうか。

皆が輪になって話をしている関係ではなくて、医師対患者さまになっているかもしれない。

坪田 例えば、インフォームドコンセント（以下、IC）という言葉があります。よく「説明と同意」と訳されます。これはどういうものかというと、治療方法を決めるときなどに、まず医師が病状説明をします。例えば、Aという治療方法、Bという治療方法などがある。医師は、色々加味するとAという治療方法にメリットがあるということを説明します。そして、患者さまに決定していただく。説明を受けた患者さまが、治療方法に同意する。これがICです。

佐々木 なるほど。そのICの場というのは、患者さまがいろいろな専門スタッフに意見を聞いてみてじっくり考えるような場ではないのでしょうか。

坪田 現状のICというのは、皆が輪になって話をしている関係ではなくて……

<続きを読む次号にて>

ボランティア募集しています！

病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてくださいの方、こもれびの森のお手伝いをしてくださる方、チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。



※心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の問い合わせをお待ちしております。

TEL : (089) 925-5000 FAX : (089) 925-5599

E-mail : volunteer@bethel.or.jp

(ボランティア委員会 担当：森)

ホスピス献金をお願いします!!

ホスピス献金は、緩和ケア病棟等の援助など、聖愛会の諸活動の援助の為に聖愛会に寄付としていただいています。

皆さま方の温かいご支援をお願い申し上げます。

★現金送金★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会（松山ベテル病院内）



★郵便振替口座★

口座番号：01610-2-25364 名義：松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、面会制限もあり患者さま、ご家族の方々にご迷惑をおかけしていますが、そのような中でも当院の理念である「その人らしさを大切にしたケア」ができるようスタッフ一同真摯に向き合っています。

また、病棟の様子をホスピス便りを通して皆さんにお伝えしたいと思いますので今後ともよろしくお願ひいたします。

担当：佐々木・吉井・篠崎・二宮

